

にじ

夏号
2021
Vol.180

高知医療センター
Kochi Health Sciences Center

当院看護師 和食が世界中の祈りを代表して
聖火ランナーをつとめました。
(小野憲昭病院長・看護師 和食加奈子)



CONTENTS

- ② 就任の挨拶
- ⑤ 4Kシステムについて
- ⑥ 新任医師紹介
- ⑧ 初期臨床研修医の紹介
- ⑩ 新しい治療について／全国WEB学会で発表しました！！
- ⑫ シリーズ地連のしごと [地域医療連携室の前方連携]

就任のご挨拶



おのりのあき
小野 憲昭

病院長

令和3年4月1日より高知医療センター病院長の任に就きました。
就任にあたり、この地域医療連携通信「にじ」の誌面で、ご挨拶申し上げます。

高知医療センターは、平成17年3月に、高知県立中央病院と高知市立市民病院を統合合併して開院し今年17年目を迎えています。

昨年度は全世界規模でのコロナ感染症の流行により、社会生活から医療にいたるまで、すべてのことが大きな影響を受けました。高知医療センターは、感染症指定医療機関として、当初はコロナ陽性患者さんの軽症者から重症者まですべての方、昨年11月後半からの第3波以降はリスクの高い軽症および中等症から重症の多くのコロナ陽性患者さんの入院治療に取り組んでまいりました。皆さまのご協力もいただき1年余りの間、何とか高知県内では「医療崩壊」とも呼ばれる逼迫した状況下で医療現場に支障をきたすことなく、重症者対応医療機関として多くの患者さんの療養にたずさわることができ、当院の役割を果たせてきたと思います。通常のがん、救命救急、総合周産期母子、こころのサポート等の診療に関しても、一時的に通常診療に制限をかけざるを得ない局面を迎えることを想定した時期もありましたが、大きな制限をかけることなく診療を行うことができました。応援してくださった県民の皆さま、また関連する医療機関等の皆さまのご協力ご支援によるものであり厚く御礼申し上げます。

私は、平成29年から高知医療センター地域医療センター長として、また平成30年からは副院長の任に就き、前任の西岡豊副院長を引き継ぎ、県内各地の医療機関への訪問や意見交換を行ってまいりました。当院が開催する地域医療連携研修会やこの連携通信「にじ」誌面などを通じて高知医療センターの各診療科で現在行っている医療を紹介させていただき、患者さんのご紹介また転院調整依頼などで医療機関の先生方や職員の方々には、日頃より大変お世話になっております。

新年度、島田安博前病院長を引き継ぎ、病院長として新たなスタートとなりますが、コロナ感染症の収束にはまだしばらく時間がかかるように感じます。コロナ感染症に対しても私ども職員が一丸となり全力で対応し、高知医療センターの役割を果たしてまいります。院内各部署には、コロナ感染症の影響で人員が

不足し十分な診療を果たせず、皆さまにご迷惑をおかけするところがあり心苦しく思っております。各部署間の連携協力体制を強めて引き続き地域の医療機関や介護施設等の皆さまとも連携し、患者さんに対するよりよい医療に繋げてまいりたいと考えております。

高知医療センターは地域医療連携を基本とする地域医療支援病院であるばかりか、地域がん診療連携拠点病院の指定も受けており、がん診療の面からも、県全体の高度急性期および急性期医療を行う中核病院としての機能を発揮し、県民の皆さまに対して安心で安全な質の高い医療を提供する責務があり、さらにへき地医療拠点病院、臨床研修指定病院でもあります。これらの役目も果たしながら、地域医療機関の皆さま方との密接な連携を強固なものとし、高知県の医療を守る中心的な医療機関でありたいと思います。

コロナ禍にあって、世の中のテレワーク同様、医療分野でも職員の研修会学会でのオンライン参加や、電話再診、オンライン診療が始まっています。これらの方法を少しずつ工夫して活用することにより、従来対面でしか行われておらず進んでいなかった診療への適用を可能な限り進めてまいりたいと思います。当院でも入院患者さんのご家族とのリモート面会や、院外医療機関・介護施設とのリモート面談なども少しずつ始めています。これらはコロナ期が収まっても活用し続けられるものであると考えます。

当院の理念は「医療の主人公は患者さん」です。高知県民の健康を守るために、当院での診察を希望される患者さんを、医療機関の先生方が当院へさらにご紹介いただきやすくなるように改善に努め、また患者さんに安心して安全な質の高い医療を受けていただけますよう、高知医療センターの6局(医療局、看護局、薬剤局、医療技術局、栄養局、事務局)、6センター(救命救急センター、循環器病センター、がんセンター、総合周産期母子医療センター、こころのサポートセンター、地域医療センター)が相互に連携協力して努力を続けてまいります。

よろしく願い申し上げます。

副院長・地域医療センター長

はやし かずとし
林 和俊



令和3年4月より、地域医療センター長の任に就きました。

私は、高校まで地元四万十市(旧中村市)で過ごした後、高知医科大学に進学。平成元年に同大学産科婦人科学教室(相良祐輔教授)に入局致しました。高知で生まれ高知に育てていただいた医師です。大学医局に所属しながら、旧県立安芸病院、嶺北中央病院、幡多けんみん病院、また高知市周辺のクリニックでも診療をさせていただいた経験もあります。平成20年に当院に異動し今日に至っておりますが、これまで一貫して「小人数かつ減少する集団で、どのように高知県の産婦人科医療を守っていくか」を出身大学を問わず先輩、同僚医師らと一緒に考えて参りました。全国の中でも高知県は、より早期に高齢化、人口減少が進んでおり、地域医療構想の実現に向けた実効性のある取り組みが求められています。地域医療構想は病床削減ばかりに意識が向きますが、「切れ目のない医療提供体制の構築」も必要です。私が産婦人科医療を通じて学んだ地域医療の維持で重要なことは、「患者さんの理解を得て、診療所・病院それぞれの医師が責任を持った機能分担、診療連携を図ること」だと思っています。このような考えをもち、当院地域医療センターの信頼を汚さぬよう、そして地域医療支援病院としての役割を果たすよう、尽力して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

副院長・循環器病センター長

やまもと かつひと
山本 克人



令和3年4月1日より副院長兼循環器病センター長の任に就きました。
この場をお借りして一言ご挨拶申し上げます。

私は昭和36年に旧幡多郡十和村(現在の高岡郡四万十町)に生まれ、高知学芸高校を経て徳島大学に進学。昭和61年に卒業後は同大学の第二内科に入局し、同年10月に高知市立市民病院内科に赴任しました。平成3年に再び徳島大学に戻り、そこで不整脈学などを研究しながら当時まだ治験が始まったばかりのカテーテル・アブレーションに取り組み、中四国で最初の症例の主術者として関わらせていただきました。その後、平成6年に高知市立市民病院に再度赴任し、それからは循環器内科医として診療に従事しています。

現在のコロナ禍では、通常の診療にも度々支障が出ることがありますが、これまで以上に高度で質の高い医療を提供し、地域の医療に貢献できるように副院長としてできることを精一杯やっていきたくと考えています。また、以前から私が取り組んできました患者さんに対する接遇やサービスの面においてもますます充実させていく所存です。

今回循環器病センター長も拝命しましたが、当センターのスタッフは新しい治療法などに常に積極的に取り組んでおり、最近ではカテーテルを用いた左心耳閉鎖術も新たに開始されました。これからも皆がチームとなって患者さんに最適な治療を提供していけるよう、センター長としてまとめていきたくと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

副院長・がんセンター長
がんセンター高精度放射線治療センター長
医療安全管理センター長

にし おか あきひと
西岡 明人



令和3年4月1日付けで、副院長 兼 がんセンター長 兼
医療安全管理センター長の任に就きました西岡明人です。

出身は高知県香南市(旧香美郡吉川村)で、土佐中等高等学校を経て、高知医科大学(現高知大学医学部)、同大学院を卒業し、高知医科大学放射線医学教室に入局いたしました。専門は放射線腫瘍学で、途中約2年半の細木病院勤務の時期を除き、今日までがんの放射線治療に従事してきました。30歳の時に文部省(現文部科学省)の長期在外研究員として10か月間カナダのバンクーバーに留学し、パイ中間子線治療と乳がんの乳房温存治療の勉強をしてきました。それ以外は高知の地を長く離れたことがないので、土佐弁は比較的堪能です。ちなみに、「ゆうべ」と「きのうの晩」の違いも分かります。

平成27年4月に高知医療センターに入職してからの6年間、がんセンター長を務めました。今後は副院長として、病院経営の健全化等に、また医療安全管理センター長として、病院の医療安全の推進等にも微力ながら務めていく所存です。新型コロナウイルスの影響は今年もまだまだ大きいものと予測されますが、関係各方面の皆様方にはこれからも変わらぬご支援を高知医療センターに賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

副院長
栄養局長・患者支援センター長

しぶ や ゆう いち
澁谷 祐一



令和3年4月1日より副院長・栄養局長・患者支援センター長の任に就きました。よろしくお願ひ申し上げます。

私は高知市に生まれ、平成元年に高知医科大学を卒業し、岡山大学第一外科に入局いたしました。その後広島県福山市、庄原市で勤務し、岡山大学で研究生生活を送り、東京、岡山大学病院、兵庫県姫路市で勤務し、平成12年10月から故郷である高知に帰り高知県立中央病院で働いております。平成17年3月に高知医療センターが開院し、食道を中心とした消化器外科と腎移植の診療を行ってまいりました。

4月からの新たな仕事は患者支援センター長、ベッドコントロール、診療報酬請求、栄養局長です。県民の皆さまが必要な時にすぐに入院でき、安心して最新・最良の治療を受け、おいしいご飯で元気になっていただき、一日も早く自宅に帰ることができるようにお手伝いいたします。そのためには入院生活で筋力を落とさないようにすることが大事です。普段から運動を心掛け健康的に生活しましょう。入院中は栄養とリハビリでサポートします。県民の皆さまに信頼され、高知医療センターで治療を受けてよかったと思っただけのような病院にしていきたいので、今後とも皆さまのご指導ご鞭撻のほど何とぞよろしくお願ひいたします。

医療局長

お ぎ き か ず ひ で
尾崎 和秀



平素より高知医療センターにご支援を頂き心より感謝申し上げます。このたび前任の山本克人医師のあと、令和3年4月から医療局長の任に就きました。一言ご挨拶申し上げます。

私は当院開院以来、消化器外科医師として診療に携わってまいりました。その中で診療科同士の繋がりとともに、地域医療機関との連携の重要性を感じてきました。自治体病院としての責務の遂行は、ご紹介を頂く地域病院のお力添えなしには成し得ないのが現実であります。地域病院の諸先生方からのご要望にしっかりと耳を傾け、互いに顔の見える関係を築いてゆくことが大切だと考えております。

現在の当院医療局には、時間外労働に対する取り組みや救急医療体制の見直しなどの喫緊の課題があります。加えて、当院は新型コロナウイルス感染症の重点医療機関であり、ワクチン接種は進んでいるとはいえ変異株の出現など予断を許さない状況です。また、既存の疾患群に対して従来どおりの医療提供も重要な任務といえます。

これから医療局長として経営陣の思いと医療現場の思いを継ぐ潤滑油となり、当院が地域医療機関に支えられ、県民の皆さんの健康に貢献できる病院であり続けるために尽力してまいります。何とぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

総合周産期母子医療センター長
感染対策センター長

に し うち り つ お
西内 律雄



令和3年4月1日より、林和俊・前センター長の後任として、総合周産期母子医療センター長の任に就きました。

私は、小児科専門医ですが、新生児専門医ではありませんので、スタッフの協力を得ながら、よりよい周産期医療を提供できるよう努力していきます。

現在、当院は総合周産期母子医療センター機能のため、NICU12床、GCU15床、MFICU3床を稼働しています。これに関わる職員として、小児科医12名(うち新生児専門医3名)、小児外科医1名、産婦人科医12名、NICU看護師29名、GCU看護師20名、産科病棟看護師41名(うち助産師31名)がおり、さらに関係各科(麻酔科、脳神経外科、心臓血管外科等)、各部門(中央手術部、救命救急センター等)からのサポートがあります。令和2年度はNICU入院233人、新生児手術8件、分娩575件でした。高知県でも少子化が進んでいますが、高齢出産などハイリスク妊娠の割合は増え、NICU入院数はほぼ横ばいです。当院が新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ病院であるため、県外からの里帰り分娩が大きく減少し、昨年は分娩数が減少しました。

新型コロナウイルス感染症の流行により、院内感染予防のため、新生児、妊産婦への面会も厳しく制限しており、ご家族に大きなストレスをおかけしていますが、引き続き皆さまのご協力をよろしくお願ひします。



4K外科手術用内視鏡システム

消化器外科・一般外科(大腸部門) 稲田 涼

当院では、KARL STORZ社製の外科手術用内視鏡カメラシステム「IMAGE1 S™ Rubina™」を導入いたしました。当院での内視鏡外科手術(特に大腸がん治療)の現状とともに本医療機器の特徴を報告させていただきます。

【高知医療センターでの大腸がん外科治療】

当院は、「地域医療連携を基本とした良質で高度な医療の提供」を基本方針とし、多くの地域の先生方のご協力のもと、平成17年3月の開院以来、多くの患者さんの治療を行ってまいりました。

大腸がんに関しても年々手術数が増加しており、令和2年は263例の大腸がんに対して大腸切除を行いました(グラフ)。当院の大腸がんの手術数は非常に多く、朝日新聞出版社の「手術数でわかるいい病院2021」では、高知1位、中四国九州1位、全国20位の手術数となっています。このことは、地域の先生方の医療連携を通じた温かいご支援と県民の皆さまの厚いご信頼の結果であり、心より感謝申し上げます。



近年、低侵襲(患者さんの体に優しい)な腹腔鏡手術が増加しています。腹腔内に二酸化炭素を入れ膨らませたうえで、臍部から内視鏡カメラを挿入し、4カ所の小さい穴から鉗子という細い手術器具を用いて開腹手術と同様の手術操作を行います。利点は小さい傷なので整容性が優れていることもありますが、それ以上に術後の創痛が少ないことや回復の早さ、さらに腸閉塞や肺炎などの合併症を予防する効果があります。しかし直接見て触りながら行う開腹手術と比較して手術時間が長く、手技が困難であるということが欠点として挙げられます。腹腔鏡手術技術を保証する内視鏡外科学会の技術認定医制度(手術ビデオ審査、合格率20%前後)がありますが、消化管領域に関しては、当院に3名(尾崎、高田、稲田)の認定医が在籍しており、安全・確実に低侵襲な腹腔鏡手術を行っています。

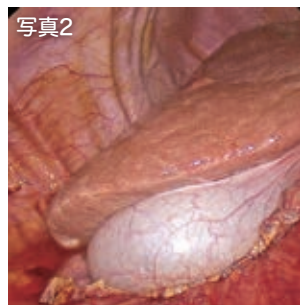
当院では、高度進行がんや開腹既往のある方の手術を行う機会も多いですが、大腸がんに関しては、根治性を損なわない場合は全て低侵襲な腹腔鏡手術を行っています(写真1)。令和2年の大腸がん手術263例のうち、腹腔鏡手術は241例(92%)と年々増加しており、令和3年は4月までの全症例(100%)を腹腔鏡手術で治療しています。



【4K内視鏡外科システムIMAGE1 S™ Rubina™】

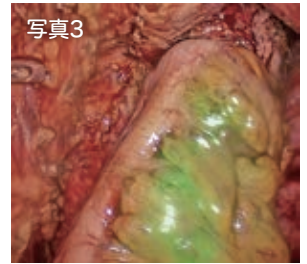
この度、内視鏡外科システムとして、KARL STORZ社製の「IMAGE1 S™ Rubina™」を導入いたしました。この手術システムの最大の特徴は、非常に高精細な4K映像とその映像と同時に観察できる蛍光イメージングです。

4K内視鏡システム(画素数: 3840×2160)は、今まで使用



してきたフルハイビジョン内視鏡システム(1920×1080)の約4倍の画素数で、画像がきめ細かくなり、微細な血管などの組織をより認識しやすくなると同時に、立体感・奥行を感じやすくなりました。写真2のように肝臓表面の凹凸や胆嚢の血管などの微細な解剖が、大きな画面に詳細に映し出されます。KARL STORZ社製の内視鏡システムは、手術支援ロボットを含めた現行の内視鏡手術システムの中で、最も高精細なカメラであると思われます。

近年、近赤外線光に反応し蛍光発光するというICGの性質を利用した血流評価が行われることがありますが、本システムはこの蛍光イメージング技術を4K画像に重ね合わせ、同時に観察することができます。写真3のように、通常の4Kのカラー画像に近赤外線光で蛍光発光したICGを緑色に重ね合わせて、吻合する腸管血流が保持されていることが視覚的に分かります。腸管切除・吻合を行った際の重篤な合併症の一つに縫合不全があり、この縫合不全の主因の一つが腸管の血流不全とされています。吻合した際にICGを用いて腸管の血流評価を行うことにより、縫合不全を減少させるという報告があり、当院でも合併症のさらなる低減のためにICGを用いた血流評価を開始いたしました。またICGは血流評価のみならずリンパ流や胆嚢管の同定などにも有用であり、がん手術の際の十分なリンパ節郭清や重篤な胆嚢炎の際の安全な胆嚢管処理にも寄与します。



本内視鏡システムを用いて、今まで行っていた内視鏡外科手術の合併症をさらに軽減させるほか、手術時間の短縮や出血量の減少が期待されます。また今まで開腹手術で行うことが多かった骨盤内臓全摘術などの超拡大手術に対しても適応を拡大し、十分な根治性が担保できる症例に関しては、低侵襲な腹腔鏡手術で行っています。

【ご紹介のお願い】

消化器外科大腸グループは、「待たせない、断らない、諦めない」を基本方針として地域の先生方のご協力のもと、患者さんにとって最善の治療を、追及しています。

ご紹介いただきました患者さんには、初診日にCTなども含めた術前検査を行ったうえで、手術日を決定し、2週間以内に手術を行うようにしています(令和2年の初診から手術までの中央値: 8日)。当然ですが、閉塞・穿孔などをきたしている症例に関しては緊急手術で対応いたします。高齢化社会の進行とともに手術が必要な超高齢者の方は増加していますが、当院では、多くの麻酔・集中治療専門の医師の協力のもと、年齢や併存疾患などによりなかなか他院では手術を行うことが難しいハイリスクな患者さんに対しても、きめ細かな周術期管理を行い、安全な治療を行っています。また大腸がんは、肺転移や肝転移、局所再発などに対しても根治切除を行うことができた場合、予後に大きく寄与します。私共は、腫瘍内科(抗がん剤治療専門の医師)、放射線療法科(放射線治療専門の医師)と協力の上、こうした高度進行・再発がんに対しても積極的な外科治療を行っています。

今回導入した4K内視鏡手術システムを用いて、体に優しい低侵襲な治療をさらに進めていきたいと思っております。またご紹介いただきました患者さんの診療経過は必ずご報告し、地域の先生方のご協力のもと、術後の定期的な経過観察を含めた治療も診療連携手帳(パス)を用いて行いたいと思っております。また大腸がん以外の消化器疾患に関しても、全力で治療をさせていただきますので、ご紹介いただけますと幸甚に存じます。今後ともご指導・ご支援のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

よろしくお願ひします

～令和3年4月1日着任 新任医師のご紹介～

ペインクリニック科

あな やま れい こ

穴山 玲子

非常勤勤務を経て、この度着任いたしました。皆さまよろしくお願ひします。

産婦人科

かわ せ ぶみ え

川瀬 史愛

4月から常勤医となりました。飲み食いが趣味です。よろしくお願ひいたします。

救命救急科

みず ぬま まり こ

水沼 真理子

福岡大学病院救命救急センターより赴任しました。よろしくお願ひします。

整形外科

ぬ もと くに ひこ

沼本 邦彦

1年間四国がんセンターに勤務し、戻りました。骨・軟部腫瘍、関節を担当します。

消化器外科・一般外科

た ぶち もと やす

田淵 幹康

安心安全な医療を提供できるよう心掛けてまいります。

消化器外科・一般外科

み むら なお き

三村 直毅

鯉のたたきのおいしさに感動しました。高知医療センターで頑張りたいと思います。

小児科

はら ま ゆ み

原 真由美

高知のこども達とご家族の笑顔のために、お役に立てるよう頑張ります。

消化器内科

なが の しょう

長野 祥

ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願ひします。

糖尿病・内分泌内科

え ばし ち ひろ

江端 千尋

患者さんに寄り添った医療を心がけ、精進していきます。よろしくお願ひします。

循環器内科

たけ うち まさ と

竹内 雅音

高知大学老年病・循環器内科より赴任いたしました。不慣れですが、よろしくお願ひいたします。

消化器内科

ひら かわ まさ うみ

平川 雅海

安全で苦痛の少ない検査を心がけています。気軽にご相談ください。

消化器外科・一般外科

さか もと しん や

坂本 真也

高知県民の皆さまのため精一杯努めてまいります。

産婦人科

たか はし なる ひこ

高橋 成彦

高知県内の後に愛媛県で研修を重ね戻りました。修練を積み全力で診療します。よろしくお願ひいたします。

小児科

くわ な しゅん すけ

桑名 駿介

高知の小児医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願ひいたします。

麻酔科

ね が やま りょう

根ヶ山 諒

土佐弁に早く馴染めるように頑張ります。よろしくお願ひします。


整形外科

おく だ りゅう いち ろう


奥田 龍一郎

患者さんに安心・安全な医療を提供できるよう心がけています。


脳神経外科
やま さき だい ち
山崎 大智
救急を中心に診させていた
だきます。よろしくお願いいたします。




麻酔科
やす だ
安田 めぐみ
患者さんが安心して手術を受
けられるように尽力いたします。
よろしくお願いいたします。




麻酔科
ほそ ぎ あおい
細木 葵
常勤医になりました。より一層
頑張りますのでよろしくお願いいたします。




麻酔科
こん どう ま ゆ
近藤 真由
常勤医となりました。手術を受
けられる患者さんが安心できる麻
酔を心がけていきます。



形成外科
みず ぐち まこ と
水口 誠人
高知の医療に少しでも貢献でき
るよう、精一杯頑張ります。



精神科
み やけ けん た ろう
三宅 健太郎
4月から常勤医となりました。
引き続きよろしくお願いいたします。




精神科
きた だい あき ほ
北代 晶帆
不慣れなことが多いですが、
今後ともよろしくお願いいたします。




～専攻医のご紹介～


泌尿器科
くい の せ あや
杭ノ瀬 彩
岡山から来ました。
泌尿器科のごと高知のこと、たく
さん勉強します。




泌尿器科
みず たに けい すけ
水谷 圭佑
高知大学から赴任いたしまし
た。よろしくお願いいたします。




放射線療法科
いずみ たか やす
泉 尊康
日々精進してまいりますのでよ
ろしくお願いします。




産婦人科
なん ぼ たか おみ
難波 孝臣
患者さん一人ひとりに寄り添い、
真摯に治療を行ってまいります。
よろしくお願いいたします。




麻酔科
こ じま な な
小島 奈々
高知の周術期医療に少しでも
貢献できるよう精進して参りま
す。よろしくお願いいたします。




消化器外科・一般外科
さ とう ま ほ
佐藤 真歩
ご指導ご鞭撻のほどよろしく
お願い申し上げます。




消化器外科・一般外科
あい だ ま さき
相田 真咲
今年度から外科医となりまし
た。ご指導の程よろしくお願いいたします。



総合診療科
やま もと なお
山本 直
卒後3年目の専攻医となりまし
た。よろしくお願いいたします。



救命救急科
ふり はた た え こ
降幡 多栄子
4月より救命救急科の専攻医と
なりました。ご指導ご鞭撻のほ
どよろしくお願いいたします。

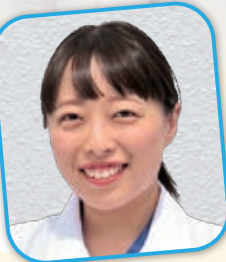


令和3年度 初期臨床研修医の紹介



いわ さき なぎ さ
岩崎 凧沙

高知の皆さんに信頼していただける医師となれるよう努力の2年間にします。よろしくお願いいたします。



うめ むら しゅう へい
梅村 周平

早く皆さまのように活躍できるよう、夢を持って精一杯がんばりますので、よろしくお願いいたします。



おか だ な ほ
岡田 夏穂

お世話になります。精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



お だ ゆき え
小田 雪愛

多くのことを吸収し、成長していけるよう精進して参ります。ご指導のほどよろしくお願いいたします。



かわ ち そう すけ
河内 聡佑

まだまだ分からないことばかりですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



かわ むら たか こ
川村 貴子

高知の医療に貢献できるよう、たくさん吸収し、実践したいと思います。よろしくお願いいたします。



こう の まさ あき
高野 正暉

できるだけ多くのことを学んでいきたいと思えます。若輩者ですがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



さか い たか し
坂井 隆志

ご迷惑をおかけすることも多々あると思えますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



たか むら こう き
高村 洸輝

至らぬ点があると思えますが、日々精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



つね みつ りょう すけ
常光 良介

初めてのことでご迷惑をおかけすることもあると思えますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



ふる かわ なお き
古川 直紀

初期研修の2年間で医師として基本的な知識技能を身につけられるよう精一杯努力します。



よし むら かず き
吉村 和樹

地域の皆さまやコメディカルの方から信頼される医師を目指し、日々研鑽して参ります。よろしくお願いいたします。



わか つき しん や
若槻 真也

至らない点多々あるかと存じますが、日々精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



つじ ぐち だい すけ
辻口 大介

初めまして。常に素直に学ぶ姿勢をもって励んでいきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



高知医療センターは令和4年度の初期臨床研修医を募集しています

令和4年度 初期臨床研修医募集要項

- 募集人数
12名+自治医科大学卒業生3名
 - 選考方法
面接・書類審査・小論文・成績証明書
 - 選考日
令和3年7/25(日)・8/20(金)・8/28(土)
 - 応募資格
令和4年2月に実施される医師国家試験に合格する見込みの者(マッチングに参加要)
 - 応募方法
書類(履歴書・健康診断票・成績証明書・卒業(見込み)証明書)を郵送または直接提出
 - 応募締切
各選考日の一週間前(必着)まで
- ※詳細はホームページにて確認ください

第60回 地域医療連携研修会を開催しました!

人生の最終段階における緩和ケアについて

- 退院支援の課題から考える -

地域医療センター 副センター長 小島 秀浩

去る2月6日(土)に第60回地域医療連携研修会を高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会と連携して実施しました。コロナ禍の中、リモート形式とし、事前に県内の医療福祉関係者、県民の皆さまにWebでの参加をご案内し、56名の参加申込みをいただきました。今回は「人生の最終段階における緩和ケアについて」「退院支援の課題から考える」をテーマに、事例発表を高知中央訪問看護ステーション統括所長の安岡しずか氏が行い、入退院支援の講師として高知県立大学の森下安子教授、座長を高知医療センターの光岡妙子緩和ケアセンター長が務めました。

訪問看護ステーションの安岡氏から、在宅療養の家族のサポート体制や、訪問看護、訪問診療などの地域の医療者との連携を取り上げ、早期の地域医療者との連携の有用性を述べられました。高知県立大学の森下教授からは、「入退院支援～地域・病院・多職種が協働で支援しよう!～」と題し、入院時から地域と医療機関等の多職種が、課題と目標を共有し、早期の在宅生活への復帰・安定に向けた仕組みについての話がありました。また、当院の島田安博病院長(当時)から、在宅に関しては患者さんから治療に関してイメージがわからない場合があるため、具体的にどういった支援があるのか、限られた医療資源を知っていただき、選択肢を提供していくことの意味がありました。座長である当院の光岡緩和ケアセンター長から、急性期病院の医師と地域医療機関の医師との連携や、緩和ケアを専門とするがん看護専門看護師、MSW、訪問看護師等との情報交換により対応するなど、Web参加の皆さまからのご質問に回答しました。最後に高知県立大学池田光徳健康長寿センター長より、患者さんやご家族は大変であると思ひますが、現実を整理して対応していただきたいとの話がありました。

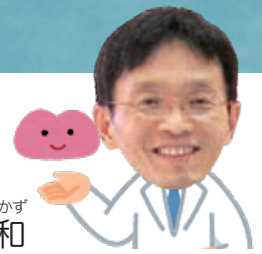


経皮的左心耳閉鎖術

WATCHMAN

循環器内科科長

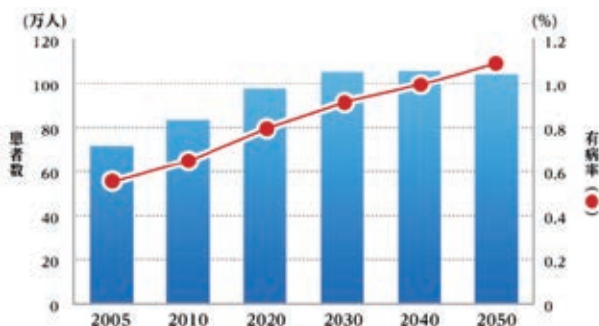
おはら
尾原
よしかず
義和



心房細動の疫学

心房細動は高齢者に多く見られる不整脈疾患で、年齢とともに有病率は増加し、日本循環器学会の疫学調査¹では、有病率が70歳代で男性3.4%・女性1.1%・80歳以上では男性4.4%・女性2.2%であり、日本の人口に当てはめると、我国における心房細動の有病率は約0.6%と推定されています。近年では高齢社会への変遷とともに、心房細動患者数も増加傾向にあり、将来の人口予測を用いて計算すると2050年には心房細動の患者は約103万人で総人口の約1.1%を占めると予測されています。

高知県は全国でも高齢者の割合が高い県であり、今後はこの心房細動に対する対応が急務と考えます。



心房細動による心原性脳塞栓症

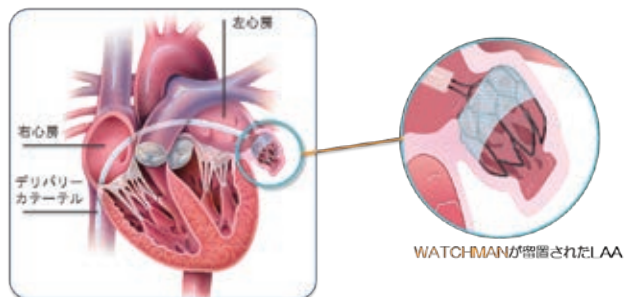
心房細動によって引き起こされる疾患として、心原性脳塞栓症があります。

心房細動では左心房が小刻みかつ不規則に拍動することで心房内の血液によどみができてしまいます。血液のよどみにより心房内に血栓が生じ、その血栓が心臓から浮遊して脳の血管に詰まることで脳梗塞を発症します。心房細動を有する患者は心房細動の無い患者より脳卒中のリスクが約5倍もあると言われています。元巨人軍の長嶋茂雄さんや小淵恵三元首相などもこの心房細動による脳塞栓をきたしたことで知られています。

血栓予防のためには抗凝固薬の内服が必要となります。しかし、高齢や併存疾患のため、抗凝固療法により重篤な出血性合併症をきたす症例も少なくありません。

経皮的左心耳閉鎖術 (WATCHMAN)

心房細動により生じる血栓の90%以上が、左心耳と呼ばれる左心房の中の袋のようになっている箇所に形成されます。経皮的左心耳閉鎖術とは、この左心耳を閉鎖栓により閉鎖することで血栓の形成を防ぎ、脳卒中を予防するカテーテル治療です。また、本治療を行うことで抗凝固薬の内服を中止することができるため、出血性合併症のリスクを大幅に軽減できます。



経皮的左心耳閉鎖術の適応患者

WATCHMANは非弁膜症性心房細動の患者さんで脳卒中予防のための抗凝固薬の内服が勧められるにもかかわらず、出血のリスクが高く長期間の内服が困難な患者さんが適応になります。具体的には、大きな出血歴がある、転倒の多さ、併存疾患の多さ、血をさらさらにする複数の薬の服用などが挙げられます。また抗凝固薬を内服しているにもかかわらず脳梗塞を起こした方や、何らかの理由で抗凝固薬を定期的に内服することが難しい方は、脳卒中のリスクが高いため、WATCHMANの植え込みが推奨されます。

当院でもこの経皮的左心耳閉鎖術が治療

可能となり、令和3年4月に当院一例目の経皮的左心耳閉鎖術を施行しました。患者さんは70歳代の女性で、慢性心房細動に対して抗凝固薬（ワーファリン）を内服していましたが、本年に入ってから複数回下血による貧血を繰り返していました。抗凝固療法継続が困難と判断し、本治療を選択しました。倉敷中央病



院循環器内科久保俊介先生のご指導の下、無事に終了しました。患者さんは術後3日目に無事に退院となりました。

最後に当院では経カテーテル的大動脈弁

置換術(TAVI)や経皮的僧帽弁閉鎖不全修復術(マイトラクリップ)などのカテーテル治療が施行可能です。今後、高齢化が進む高知県において、これらの低侵襲治療が重要な役割を果たすと考えています。

前述の適応症例がございましたら、いつでもご紹介ください。また適応に悩まれる症例も、遠慮なくご連絡ください。



■紹介先

循環器内科：尾原義和・吉村由紀
外来：月曜 午前・午後

学会発表しました!!!

第85回日本循環器学会学術集会 循環器内科科長 尾原義和



CCU看護師
(左) 眞鍋有加 (発表)
(右) 澤村美咲

第85回日本循環器学会学術集会において当院CCU看護師が一般演題を発表しましたので、報告させていただきます。

今回発表したのは我々が経験した劇症型心筋症の患者さんで、インペラという特殊な治療デバイスを挿入し、CCUでの管理を行っていました。患者さんの精神的・肉体的ストレスに対して看護師がどのようにアプローチしたか、また医師と患者さんの橋渡しをどのように行ったかなどを検討し発表してもらいました。本来であれば学会会場での発表をしてもらいたかったのですが、本学会もCOVID-19の影響でWEB開催となり、事前の収録となりました。

発表の看護師(眞鍋有加)は初の学会発表であり、前日から胃が痛かったようです(笑)。こちらが見ても緊張しているのが分かるぐらいでした。しかし発表が始まると、事前に練習した以上に落ち着いた発表であり、非常に頼もしく思えました。大阪大学のCCU看護師さんからは、当院のCCU看護体制についてお褒めの言葉をいただきました。

この学会は、循環器領域では国内最大規模の学会です。私自身、学会で発表することは、自らの勉強になること、自施設以外の方に意見をいただくことができる非常に貴重な機会と考えております。これからも循環器内科スタッフには積極的に学会発表を推奨し、より良い医療・看護を提供できるように勉強に励みたいと思います。今後も何とぞよろしくお願い申し上げます。





地域医療連携室の前方連携は、(株)ソラストの医療事務職員4名で業務にあたっています。地域の医療機関からご紹介いただく患者さんの受入れ窓口として、緊急、転入院、外来予約、共同機器利用(CT、MRI、核医学検査)などの様々な依頼について予約取得や、その他連絡調整をしています。

外来予約手続の際は、紹介元から診療申込書のFAXを受け取り、基本的には15分以内には予約票をお返ししています。

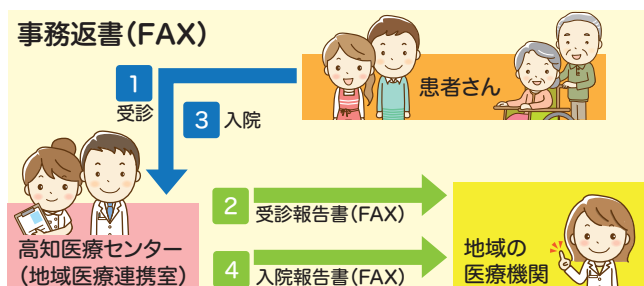
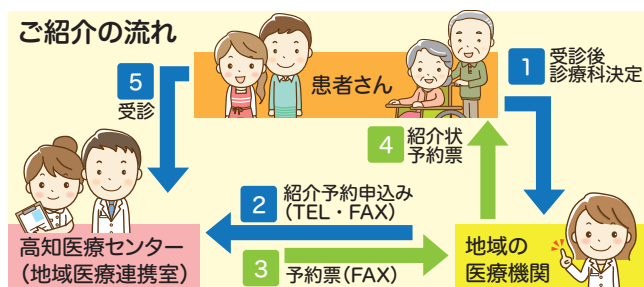
そして、ご紹介いただいた患者さんの外来受診後の受診報告、外来後の入院時には入院報告を事務返書としてFAXでお返ししています。

また、医師の返書管理も行っています。外来紹介時の初回返書に対する医師の返書管理として、返書に関してのお問い合わせや、情報提供依頼などの窓口となっています。ご紹介いただいた患者さんの返書が届かない時には、前方連携にお問い合わせください。

そして、オープンシステムにおける登録医の情報管理、開放病床利用について共同指導等の連絡窓口となっています。登録医の先生が所属する医療機関名は連携先医療機関として、当院玄関の掲示板や、ホームページからもご確認いただけます。また、令和3年4月から外来担当表を連携先医療機関の方にFAXでお送りしています。

さらに、当院の外来患者さんが、紹介で他院を受診するにあたり、事前予約が必要な場合、予約手続をさせていただきます。

前方連携は紹介受入れ窓口として、お待たせしないをモットーに業務にあたっています。患者さんのご紹介の際には、迅速に対応ができるように務めてまいりますので今後ともよろしくお願いいたします。



◆外来診療時間◆

午前8:00~12:00 午後1:00~4:30 (土・日・祝日・年末年始は休診)

一般の方から各種お問い合わせ TEL088-837-3000(代)

お願い：上記電話番号は、医療施設からの専用電話です。

一般の方からの各種お問合せは、高知医療センター代表番号(088-837-3000)へお電話いただきますようお願いいたします。

地域医療連携通信「にじ」に関するご要望・ご意見は[renkei@khsc.or.jp]までお寄せ下さい。

にじ 2021 年夏号 (第 180 号)

発行：令和 3 年 6 月 1 日

編集者：地域医療連携室

発行者：小野憲昭

印刷：株式会社高陽堂印刷

発行元：高知県・高知市病院企業団立

高知医療センター

〒781-8555 高知県高知市池 2125-1

TEL：088(837)3000(代)



高知医療センターホームページ
<http://www.khsc.or.jp/>